

低温設備の専有スペースを**20%削減!**
 年間電気料金削減効果約**1.2ヶ月分!**

氷蓄熱システム



ランニングコスト低減の切り札

業務用蓄熱調整契約制度

昼間電力の**40%**という有利な電気料金を活用

蓄熱システムによって夜間電力を利用する設備を対象に、電力会社が特別に設定した有利な料金割引制度により、22時から翌朝8時までの間は昼間料金の約40%、深夜料金の約3割引となり、ランニングコストの削減に寄与します。

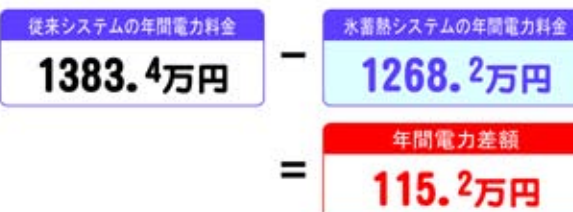


導入コストの回収期間 ▶ **3年~5年**

有利な電気容量 1000kw 以下

電気料金の差額プラスαのコスト効果

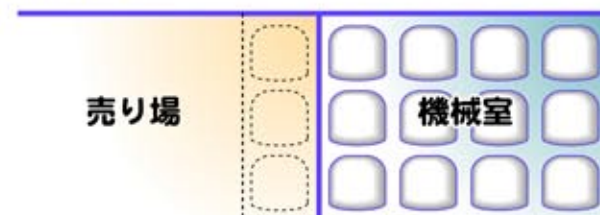
設備容量が1000kwを超すと基本料金がアップする業務用電力。同時に大きなスペースが必要となり、専任の電気取扱主任の配置など付帯コストが増加します。最大負荷時の電力使用量を約20%低減する氷蓄熱システムなら断然お得です。



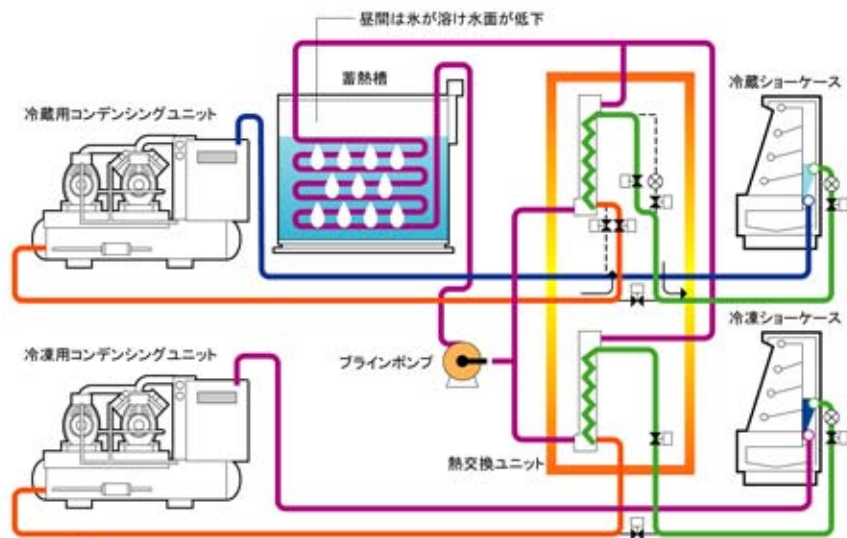
設備専有スペースの削減

低温設備の機械室スペースを**20%縮小**

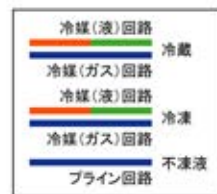
夜間に蓄熱（製氷）したエネルギーを昼間のショーケース冷却に利用することで、最大負荷時の設備容量を20%低減できます。従来システムで20台の冷凍機が必要な店舗なら、氷蓄熱システムでは16台に減らすことが可能です。



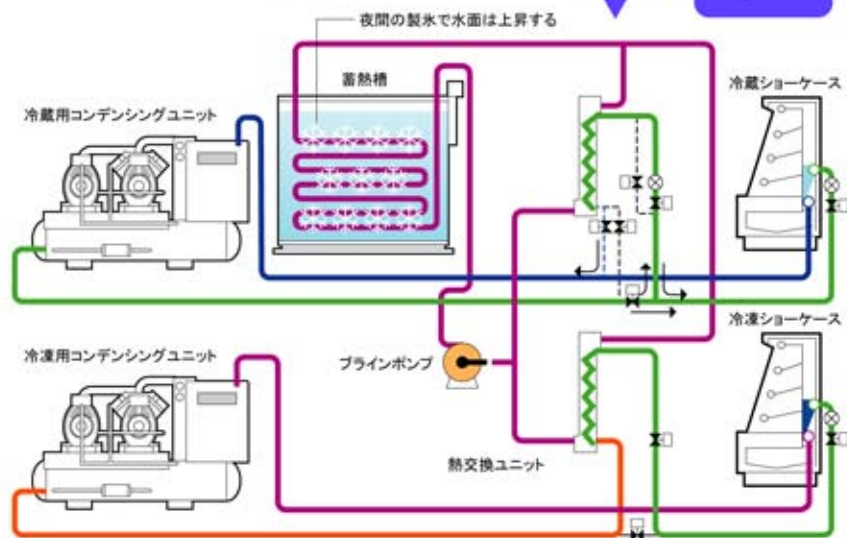
昼間・夜間のシステムフロー



↑昼間運転

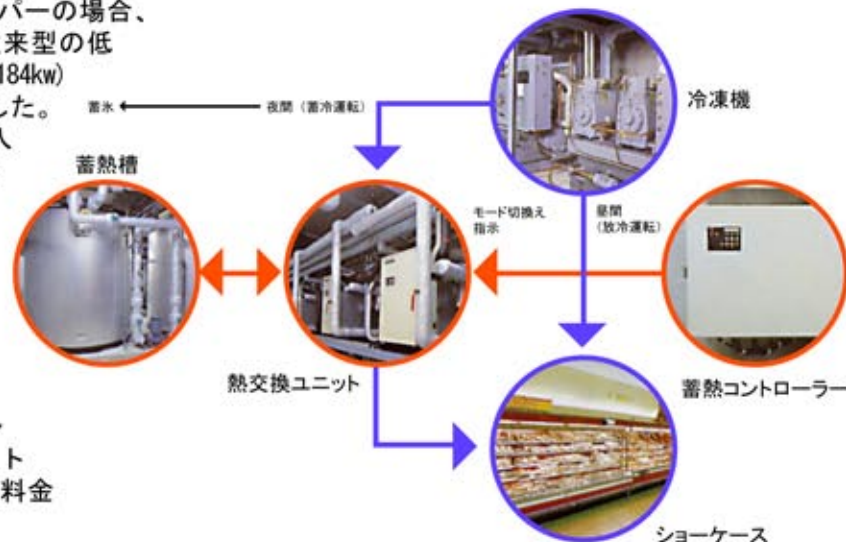


↓夜間運転



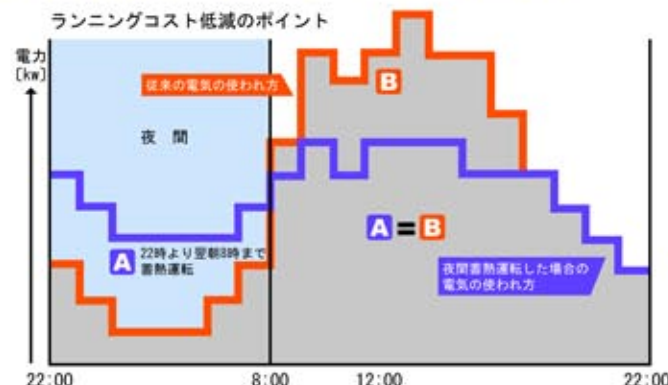
初期投資の増加分を3年以内に回収できる

売場面積 500 坪のスーパーの場合、
 イニシャルコストは従来型の低温システムなら 245HP (184kw) の冷凍機容量が必要でした。氷蓄熱システムを導入すれば冷凍機容量を約 20 ~ 25% 小さくすることができます。ただし従来型より設備投資にコストはかかります。ランニングコストは氷蓄熱システムなら最大負荷時の設備容量が約 20 ~ 25% 縮小できるなど、トータルで約 10% の電力料金の節約が実現します。



夜間の安い電力を有効活用して、かしこく節約

増え続けるショーケース冷却の電力コスト…。氷蓄熱システムが注目を集めています。夜間の割安な電気を利用して蓄熱(製氷)し、その熱エネルギーを昼間の冷凍・冷蔵ショーケース運転に活用するものです。夜間、蓄熱のためにトータルの電力使用量は従来システムに比べて約 10% 程度増えますが、割高な昼間の使用電力量を約 20% 削減できるため、結果、約 10% の節約ができる、これからの低温設備システムの切り札です。



KK 伊丹ダイキン空調株式会社

本社・工場 〒664-0836 兵庫県伊丹市北本町1-1 TEL072-782-1133 FAX072-784-2647
 大宮営業所 〒337-0051 埼玉県さいたま市見沼区東大宮4-12-1 TEL048-668-0118 FAX048-666-5145
 東京サービスセンター 〒193-0835 東京都八王子市千人数4-11-10 TEL0426-65-1823 FAX0426-61-3439